

豊田佐吉 発明家、実業家。自動織機の発明改良に生涯をかけ、(豊田紡織)設立、大自動車会社(トヨタ)の祖となった。

とよださきち

大政奉還・・・1867 = 生。静岡県の貧農の出身。

明治維新・・・1868 = 1歳：

明治6年政変 1873 = 6歳：

三つの反乱・1876 = 9歳：

琉球処分・・・1879 = 12歳：この頃から父に従って大工仕事に従事。

明治14年政変 1881 = 14歳：

岩倉具視没・1883 = 16歳：この頃から新聞、雑誌を耽読することが多くなる。

内閣発足・・・1885 = 18歳：専売特許条例の公布に刺激されて発明を志す。

帝国大学始・1886 = 19歳：友人とともに東京地方に遊び工場や造船所を見学。

国民之友始・1887 = 20歳：徴兵検査で抽選に外れ兵役につくことができず、手織の改良を志す。

名古屋に出て織物工場の職工となり、ついで小型の織機の製作にうちこみ、

帝国憲法発布 1889 = 22歳：

帝国議事始・1890 = 23歳：*内国勸業博覧会機械館を見学。早くも豊田式木製人力織機を発明し、

足尾鉞毒始・1891 = 24歳：特許を受ける。

大本教・・・1892 = 25歳：上京して浅草に機屋を開業。

郡司千島探検 1893 = 26歳：結婚し、機屋を閉鎖して帰郷。

日清戦争始・1894 = 27歳：

日清戦争終・1895 = 28歳：妻が愛想をつかして離婚。系繰返機を発明して特許を受ける。名古屋に出て系繰返機販売店を開く。

八幡製鉄始・1897 = 30歳：再婚。豊田式木製動力織機を完成。名古屋で工場を開き製作を始める。

Bushidou・・・1899 = 32歳：自動織機の特許を受け、三井物産と共同で合名会社井桁商会を設立、中小の織物工業者に歓迎された。

田中正造直訴 1901 = 34歳：経糸送出装置を発明。

教科書疑獄・1902 = 35歳：*井桁商会を辞し、名古屋の販売店・工場をもとに豊田商会を設立。

日比谷公園・1903 = 36歳：

その後も、織機やその部分について次々と改良的発明を続け、特許を受ける。日露戦争の前後には小幅の半木製の織機から広幅の鉄製織機に至るまで各種の織機を次々に発明し、発表した。もっとも彼はあくまで発明家であって、当時は実業家ないし経営者の性格をもたなかったから、三井物産と中京・関西の資本家が出資して、彼とともに織機の大量生産と販売を試みた。

日露戦争終・1905 = 38歳：いわゆる三八式の特許を受ける。この年創立の名古屋織布会社や、

満鉄発足・・・1906 = 39歳：豊田商会を組織替えして設立された豊田式織機株式会社の常務に就任するが、いずれも成功せず、

韓国併合・・・1910 = 43歳：豊田式織機を辞任。外遊にでる。

大逆事件判決 1911 = 44歳：帰国。

明治天皇没・1912 = 45歳：*名古屋に豊田自動織布工場を創設、その後は独力で織機の製造を進め、販売は三井物産に一任した。

彼の簡便かつ廉価な織機は大正時代になると全国的に普及し、中小織物工場の存続と発展に目ざましい貢献をした。

本格政党内閣 1918 = 51歳：豊田紡織を設立、社長に就任。

原敬首相暗殺 1921 = 54歳：上海豊田紡織廠社長。

護憲三派圧勝 1924 = 57歳：1899年に特許を受けた自動織機を完成。帝国発明協会に100万円を寄附。

円本時代始・1926 = 59歳：豊田式自動織機として最終的な完成を見た。

40年間にわたる織機の研究と改良の結果、彼の発明特許は日本で100以上、外国でも50以上に達し、世界各国からも注目を集めた。晩年は、養嗣子の豊田利三郎に自動織機の事業(豊田自動織機製作所)を、そして長男の喜一郎には自動車製造(トヨタ自動車工業)の夢を託して、

海軍軍縮条約 1930 = 63歳：没した。